

# ◆リハビリテーション室

室長 五十嵐稔浩  
係長 力丸 孝臣

当院周辺地域の高齢化と人口の減少は急速に進行しており、周辺地域の抱える深刻な社会問題である。

このような地域環境の中、リハビリテーション室が実施する急性期・回復期リハビリテーションを中心とした在宅復帰支援は年々複雑多様化している。

2019年度リハビリテーション室では、患者、家族そして関係スタッフに対する、徹底した在宅復帰支援（退院支援）、積極的な離床支援などを実施した。

## 1. 人員体制

- 専任医：5名（回復期リハビリ病棟専従医1名）
- 理学療法士：15名（2019年4月より産休者1名）
- 作業療法士：16名（2019年7月また2019年11月より1名ずつ産休者復帰、2019年10月～産休者1名）
- 言語聴覚士：5名（2019年11月より産休者1名復帰）

## 2. リハビリテーション処方依頼状況

リハビリテーション処方依頼件数は、入院疾患別リハビリテーション626件、外来リハビリテーション120件、摂食嚥下療法29件、計775件であった。（表-1）

表-1 リハビリテーション依頼件数の推移

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
入院	711	676	720	589	635	626
外来	78	71	73	100	81	120
摂食機能療法	75	42	15	30	29	29
合計	864	789	808	719	745	775

## 3. 入院疾患別リハビリテーション分類

### (1) 患者属性

男性270名、女性356名  
平均年齢80.5歳（男性77.3歳 女性83.7歳）

### (2) 疾患別リハビリテーション分類（表-2）

表-2 入院リハビリテーション疾患別分類

	脳	運動	呼吸	廃用	がん	消炎
2019	130	235	79	140	11	2
2018	148	255	71	116	10	6
2017	152	257	46	112	22	4
2016	131	304	90	162	31	2
2015	150	252	64	167	42	1
2014	167	275	81	142	43	3

## 4. 外来リハビリテーション処方依頼状況

### (1) 患者属性

男性30名、女性90名、  
平均年齢70.1歳（男性61.8歳、女性78.4歳）

※神経心理検査は患者属性に含まない

## (2) 疾患別リハビリテーション分類（表-3）

表-3 外来リハビリテーション疾患別分類

	脳	運動	呼吸	廃用	心理検査	消炎
2019	4	108	0	0	149	8
2018	8	66	0	5	175	2
2017	4	96	0	0	1	2
2016	8	66	0	0	1	0
2015	5	64	0	0	3	1
2014	5	68	0	0	1	3

## 5. アウトカム評価

～在宅復帰率とFIM利得および疾患別リハビリテーション分類～  
対象：2019年4月1日～2020年3月31日までに当院のリハビリテーションを受けて退院した患者

### (1) 病棟（床）別在宅復帰率とFIM利得及び疾患別リハビリテーション分類

#### ○一般病床（表-4）（表-5）および（図-1）

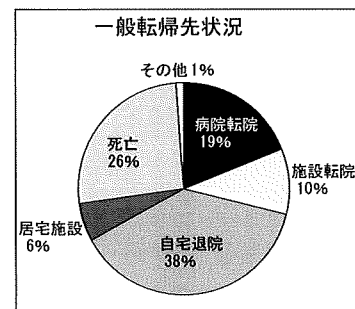
退院者72名（男性35名、女性37名）、  
平均年齢83.7歳（男性82.0歳、女性85.2歳）

表-4 一般病床疾患別リハビリテーション分類

がん	脳血管	運動器	呼吸器	廃用	摂食
0	13	9	21	24	5
0%	18%	13%	29%	33%	7%

表-5 一般病床在宅復帰率及び転帰先状況

病院転院	施設転院	自宅退院	居宅施設	死亡	その他
14	7	27	4	19	1
19%	10%	38%	6%	26%	1%



#### ○地域包括ケア病床：（表-6）（表-7）および（図-2）

退院者266名（男性112名、女性154名）  
平均年齢81.0歳（男性77.5歳 女性83.5歳）

地域包括ケア病床疾患別リハビリテーション分類

がん	脳血管	運動器	呼吸器	廃用	摂食
9	15	86	45	104	7
3%	6%	32%	17%	39%	3%

表-7 地域包括ケア病床在宅復帰率及び転帰先状況

病院転院	施設転院	自宅退院	居宅施設	死亡	その他
23	20	190	23	10	0
9%	7%	71%	9%	4%	0

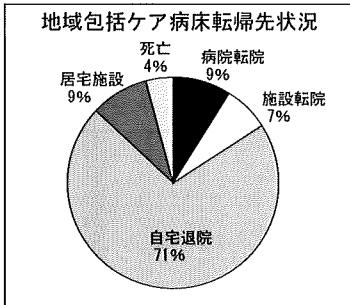


図2

○回復期リハビリテーション病棟：(表-8) (表-9) および (図-3)

退院者222名 (男性80名、女性142名)

平均年齢79.8歳 (男性74.2歳 女性82.9歳)

表-8 回復期リハビリテーション病棟疾患別リハビリテーション分類

がん	脳血管	運動器	呼吸器	廃用	摂食
0	85	136	0	1	0
0%	38%	61%	0%	1%	0%

表-9 回復期リハビリテーション病棟在宅復帰率及び転帰先状況

病院転院	施設転院	自宅退院	居宅施設	死亡	その他
10	34	163	11	1	3
5%	15%	73%	5%	1%	1%

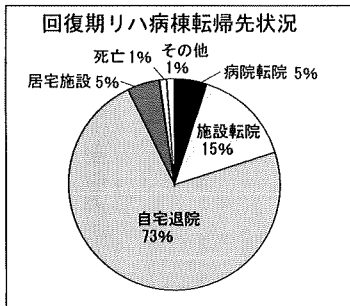


図3

(2) 病棟 (床) 別 F I M 利得 (表-10)

	入院(床・棟)時 F I M	退院時 F I M	F I M 利得
地域包括ケア病床	78.0	88.2	10.2
回復期リハビリテーション病棟	67.1	93.8	26.7

【まとめ】

- ・リハビリテーション総依頼件数は2018年度と比較すると、外来リハビリテーション依頼の増加により微増となったが、入院リハビリテーション依頼件数は減少し、脳血管リハビリテーション患者の減少 (対前年：18件)、廃用リハビリテーション患者の増加となった。
- ・一般病床においては、前年度と比較すると、総単位数は

260単位の増加となったが、平均介入患者数は0.95名減少したこと、また、脳血管リハビリテーション患者の減少による単価の落ち込みにより、1,302,610円の減収となったと思われる。

- ・地域包括ケア病床では、2019年度平均介入患者数は39.7名と2018年度と比較しても顕著な差はなかった。しかし、総単位数は1,172単位と減少し、一日平均リハビリテーション単位数は2.3単位と施設基準を良好に維持できている。地域包括ケア病床における集団リハビリテーションの積極的な実施によるリハビリテーションの効率化が示されたと考える。
- ・回復期リハビリテーション病棟においては、前年度と比較して、総単位数は4307単位増加し7,843,500円の増収となった。対前年と比較すると、脳卒中比率は-2.1%、6単位制限者 (85歳以上) が-4.5%といずれも減少し、延べ入院日数は44日延びた。
- 回復期リハビリテーション病入棟者数は、2019年度217名と年々減少傾向にあるが、病床稼働率が38.0床と過去5年間で最も高く、実績指数も45.0、F I M利得も26.7点、在宅復帰率も81.1%と基準を上回っている。
- ・リハビリテーション室の総実績においては回復期・一般病床などにおけるリハビリテーション機能分担および人員配置の再検討により前年度を上回った。